

日本ロレンス協会ニューズレター No. 39

2020年9月16日

日本ロレンス協会会長 田部井 世志子
副会長 石原 浩澄

会員の皆さまにおかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、今年度の日本ロレンス協会第51回大会は、コロナ禍の中、企画の一部（シンポジウムとワークショップ）を1年延期しつつも、研究発表についてはヴァーチャル研究発表大会と称して、本年の6月20日に発表会を開始し、7月6日に幕を閉じました。

以下のような異例の段取りを取らせていただきました。6月20日から27日までの期間に発表者お二人の動画を会員の皆様に各自でご視聴いただき、ご意見、ご質問などを一斉メールで送っていただき、ご意見、ご質問の受け入れ期限を28日にして一旦閉じさせていただいた上で、その後、最終的に発表者のお二人に、ご意見、質問等に対する回答を会員全員に一斉メールで送信していただきました。

杉野久和氏の発表のタイトルは「*Lady Chatterley's Lover*における男性性の再生——D. H. ロレンスの教育哲学の検討」、大江公樹氏の発表のタイトルは「*Women in Love* の 'The Industrial Magnate' に見る、レフ・トルストイへの応答」でした。いずれの研究発表も興味深いもので、一斉メール等で会員の皆様からご意見、ご質問が9通も寄せられました。それらに対する回答の準備は大変だったことと察せられます。発表者のお二人から寄せられたその資料を見ても、従来の発表会に劣らず、とても充実したものになったと思っています。発表の様子等については協会ホームページ（以下HP）の「全国大会」→「51回」の「レポート」をご覧ください。また、大会の詳しい内容については、次号の会誌『D.H. ロレンス研究』第31号の「日本ロレンス協会第51回ヴァーチャル研究発表大会報告」をご参照ください。

ヴァーチャル研究発表の終了後、期間をあけて8月24日～31日に役員会を、9月7日～13日には総会をいずれもメール会議形式（一部郵送）で開かせていただきました。以下の議題を問題なくご承認いただきましたことをご報告させていただきます。

議 題

1. 第 52 回大会について

本来であれば第 51 回大会（2020 年）を高知県立大学において 6 月 20 日（土）、6 月 21 日（日）に開催する予定でしたが、今年はコロナ禍の中、上記の通り、ヴァーチャル研究発表という形態をとらせていただきました。2 年続けて開催校の準備をしていただくのはとても申し訳ないのですが、鳥飼真人氏が来年度の開催についても快諾くださいました。そこで第 52 回大会は以下の要領で開催する予定です。

開催校： 高知県立大学永国寺キャンパス

日程： 2021 年 6 月 19 日（土）・20 日（日）

2. 決算報告、予算案（2020 年度会計決算報告と 2021 年度予算案）

会計の鳥飼氏からメール会議においてそれぞれ報告と提案がなされ、決算については諸戸樹一氏と麻生えりか氏による会計監査もなされたとの報告があり、承認されました。

その他、報告、話題提供等

「会員数について」報告させていただきました。8 月 20 日現在の会員数は 96 名となり、昨年度から 4 名の減少となりました。

総会での「報告、話題提供等」は上記のみでしたが、以下、それ以外で 3 点、話題提供させていただきます。

1. 和田静雄海外研究発表助成制度の奨学金について

あと 2 名分の予算が残っています。詳しくは以下の HP のサイトから入ってご確認ください。<http://dhlsj.jp/society.html>

2. 国際学会について

今年度予定されていた内容が、コロナ禍のために来年度に延期になりました。皆さま、奮ってご参加ください。

* 15th International D.H. Lawrence Conference (July 11-16, 2021), Taos, New Mexico: “Lawrence’s 1920s: North America and the ‘Spirit of Place’”

詳しくは以下のサイトをご覧ください。

<http://dhlsna.bravesites.com/conferences-calls>

<https://www.dhlconf2020.org/>

* 34th INTERNATIONAL D. H. LAWRENCE CONFERENCE (April 8-10, 2021),
Paris, Université Paris Nanterre, France: “D. H. Lawrence and the People”

詳しくは以下のサイトをご覧ください。

<https://crea.parisnanterre.fr/call-for-papers-34th-international-d-h-lawrence-conference-918591.kjsp>

3. 現在、執行部としましては、以下の問題が保留になっております。

・評議員の欠員補充について（関東地区）

この点につきましては、来年度、皆様にご提案する予定です。

・D. H. Lawrence Digital Archive of Japan の HP への立ち上げについて

協会 HP に Digital Archive を立ち上げることにより、会員から寄せられる「ロレンス研究文献」の中身を閲覧することができるようにしてはどうかというご意見が寄せられています。この点につきましては、議論を重ねていければと思っています。

以上、ご報告いたします。

今回、上記のヴァーチャル研究発表という異例の企画を実現させることができましたのも、動画作りを積極的にして下さった発表者のお二人、そして何より、このような企画をお認めいただき、積極的にご協力いただきました会員の皆様のおかげです。心からお礼申しあげます。

じっくりと企画を練る時間もないまま、新奇な試みを実現するべく急遽動き始めたということもあり、多くの課題や問題点があったと思いますが、同時に、思いもしなかったメリットも見えてきました。発表者の動画をじっくりと繰り返し聴くことができたり、従来大会であれば大会日に都合がつかなければ発表を直接聴くことはできなかったわけですが、今回、動画の視聴というオンデマンド形式であったために、会員の皆様がご自分の予定に合わせて自由に聴くこともできました。また、従来大会の研究発表では質疑応答の時間制限のために、十分にご意見、ご質問等をいただけないこともあったかと思いますが、今回は期間を設けたこともあり、多くのご意見等をいただき、またそれらに対する回答についてもじっくり時間をかけていただくことができました。来年度以降の大会に活かせるところは活かしていければと思っています。

シンポジウム、ワークショップにつきましては、とても興味深い企画を進めていただいていたにもかかわらず、延期になったことは本当に残念でした。来年度の大会を楽しみにしています。来年度の大会についてはコロナの状況次第では、またヴァーチャル・カンフ

アランスになる可能性があります。もしそのような事態になりそうな場合には、今年の反省点を踏まえて、来年度はより充実したものにするための模索をしなくてはならないと考えています。時期が近づいてきましたら、今年度の大会の総括も含め、アンケートを取らせていただくこともあるかと思えます。その際には、是非またご協力のほど、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、様々な問題点等々を検討し、最終的に何とか今回の企画を実現に至らしめることができたのも、ひとえに執行部の皆様のご協力のおかげです。この場を借りて、心からお礼申し上げます。

コロナ禍の中、このような状況だからこそ、大切なものを見失うことなく、前を向いて皆様と一緒に歩んでいければと思っています。それでは皆さま、来年こそは、6月に高知県立大学でお会いできることを祈念しています。